

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 8月30日

【評価実施概要】

事業所番号	3650180023
法人名	医療法人鈴木会
事業所名	グループホーム 蜂須賀荘
所在地	徳島市応神町古川字日ノ上32-1 (電 話) 088-666-3868

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 8月18日

【情報提供票より】(平成19年 7月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年11月7日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人		

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2階建ての	2階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	160 円	昼食	270 円
	夕食	270 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 800円			

(4) 利用者の概要(7月24日現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名		
要介護3	7 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.85 歳	最低	55 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	伊月病院	小積歯科
---------	------	------

徳島県 グループホーム蜂須賀荘 1

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームは、独自の理念に基づき日々のケアサービスの質の向上に全職員が取り組んでいる。地域との交流は理念に掲げ、実際の取り組みとしては、老人会との交流、幼稚園児や学生との交流を季節の行事と一緒に楽しみながら行っている。菜園や畑に出かけたときは、近所の方との交流をするなどし機会あるごとに地域の方々とのふれあい、交流を積極的にされている。また、利用者の希望や体調に合わせた買い物や散髪、墓参りなど外出する機会も多くもっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 定期的に評価することで、それを活かした具体的な改善策が見出され改善への糸口となっている。地域との交流の取り組みや同業者との交流について、入浴の時間帯についての取り組みなど多くの課題に対して全職員が積極的に取り組まれている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価について、ミーティングで職員の意見を取り入れ、その後、全職員での話し合いがされ、作成されている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議では、利用者、家族、行政などで具体的な取り組みについての意見が交わされる場となっている。運営推進会議に家族の方が参加することにより、意見や不満等を話し合うことができ、よりよいサービスの質の向上に繋がっている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月1回は家族に利用者の暮らしぶりが写真とともに報告されている。家族の方の面会時、運営推進会議時、季節の行事など、ことあるごとに意見や苦情、不満等を聞き対処する体制ができています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 菜園や畑の作業、季節の行事等に地域の方々との交流を持つ場作りが積極的にされている。近くの幼稚園児、学生とも交流があり、楽しい日常生活を送ることができるような工夫がされている。

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、グループホーム独自のものを職員から募り作成し、名札の中に入れ職員全員が毎日の申し送り(13時)時に復唱し、確認している。理念には、地域とのかかわりやその人らしく生活すること、安全を重視した内容の理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、名札の裏に書かれており、毎日、復唱することで意識づけがされている。部屋のよく見える場所にも額に入れ飾られている。ケアプランの内容も理念を反映した内容となっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の敬老会に参加するなど積極的に交流がされている。また、近くの幼稚園児や大学生との交流もあり、地域の人々と付き合いがなされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価は職員でし、その評価を前向きに具体的な姿勢で改善に取り組まれている。ミーティングで職員からの意見を取り入れている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者、家族、行政などが具体的な取り組みについて意見を交わされる場となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者からの情報を得、研修会への参加や情報を頂き事業所のサービスの質の向上に取り組まれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回は利用者の暮らしぶりを家族に写真などと共に送付されている。また、金銭の出納や健康状態についても定期的に受診した内容や、異常時にはその都度報告がされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営会議に家族の方の参加や意見箱の設置、面会時に意見・苦情・不満等を職員との話し合いを行うことで聞かれ運営内容に反映できるようにされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動が合った場合は、利用者の希望を取り入れながら、気の合った馴染みの職員が支援できるように勤務を調整し、支援している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への参加計画や参加した職員からの報告会を復命し、職員全員に研修の内容を報告し、人材育成に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との連携に運営会議の参加や情報の交換をしている。お互いの交流でサービスの質の向上に取り組まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスを利用する前には、ケア計画を立案し、必ず本人や家族に相談し承諾を得てからサービスが開始されている。馴染めるように工夫されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	趣味やレクリエーションを職員と利用者と一緒にし、いろいろな作品を作られている。共に教えたり教えられたりのよい関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴を家族の方から情報を頂いたり、毎日の生活の中から思いや意向の確認がされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個別のケア計画が作成されており、ケア実践記入表に毎日チェックされている。月末に評価し、再検討されている。本人や家族の意向を取り入れられている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しをしており、変化があった場合には、その都度計画の見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の多機能性を活かし、利用者や家族の要望に応じて柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と相談されてからの受診や医療機関の選択をされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	毎日の観察の中から異常時の早期発見に努め、家族の面会時などの機会に、病状の重度化や終末期についての話し合いをされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや対応にその人の尊厳が重視されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに沿った支援がされている。身だしなみがよく、清潔感がある。また、笑顔でありその人らしい生活ができている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の片付けや準備などそれぞれの役割があり、その日の体調により決められている。台所では音楽が流れ、食事は静かな雰囲気でも和やかな時間もたれている。また、利用者にも穏やかな笑顔がある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を拒否されても、職員の声かけの工夫により入浴ができています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりのできる役割を自分で決めそれを毎日の日課とし、達成できた日には印を捺している。目標を達成することを楽しみとし、喜びとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望に応じた買い物や外出が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には鍵をかけないことを職員間でも話し合い実践されている。職員の見守りができない早朝の時間帯のみ鍵をかけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は定期的に行われている。職員間や警察、消防などへの連絡網が作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による栄養管理がされている。水分量や食事は毎回確認した記録がある。また、水分は1日6回の摂取がされている。食事では嗜好物や形態も配慮された食事内容となっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間では、思い思いに過ごせるようなソファや椅子、机などがあり、それぞれが自由に空間を利用しくつろいでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたものが持ち込まれ、落ち着いた居心地の良い居室になっている。整理整頓されていて清潔感がある。		